

「本報談、原因等ヲ撮キニシ第一ニ工賃問題第二ニ半減費用ノ問題ヲ交渉スル方解決ヲ早カラシムルモノト思ハル」ト述ヘ労働双方是ニ合意シテ賃金問題ニ付折衝シタルニ結局更ニ交渉スルトト、シテ会見ヲ了レリ

百翌二日今署ニテ午前十時ヨリ前日合採共資双方并ニ倉橋ノ折衝出布折衝ニ双方共態度強硬ナリシニ結局因共ノ提案ニテ一ケースノ内半減ト決定シ更ニ半減費用問題ヲ入り事業主側ハ工賃前渡ノ形式ニテ四十圓ヲ主張シタルモ労働者側ハ肯セスニテ三日午前一時三十分交渉ヲ打切りタリ

四日午後三時ヨリ更ニ前合採会見折衝ニ事業主側ハ四十圓、外更ニ五十圓ヲ支給スヘシト申出テ労働者側ハ八百五十圓ヲ主張シテ譲ラズ結局更ニ交渉スルトト、シテ会見ヲ打切りタリ

右及申(通)報候也

別記一

半減経過報告

全労働者諸君！
全メリヤス工諸君！

吾等東京メリヤス工組合が二三、年三月誕生大会を期キ急速度を以て組合を完成させ現在二百数十名の組合員を擁する事は吾々の喜びとする処である。

組合誕生直後、組合訓練の第一歩はやく来た。それは去る三月十九日東京市コトシ編織同盟(中岡権取階級の同盟)中の倉橋(メリヤス大買本家)系工場及び立工場(所由、入江、山本、牧田、佐塚)は突然、一割三分の値下を強制し来た。吾等東京メリヤス工組合は此の暴人的賃報値下に対し絶対反対を決議すると共に倉橋及編織同盟に対し即時値下撤回を迫った。

メリヤス工労働条件は現在の各産業界労働者に比較しても最も劣悪なる地位にあるのだから一月四時労働平均日収一月二十万俵だ。これをメシム喰へるの、妻を養うてかけるが、うんぬんを喰ふが、夜にけしよるが。これが此頃のメリヤス工の合言葉だ。

労働賃報のメリヤス工に対し倉橋は八歩の賃報値下を言渡し立工場は更に五歩を附加して強行しさせた。吾等五名には此のよう棒を飢餓的値下を絶対主義とする事は出来なく組合の決議は値下げを蹴すると共に値下絶対反対を叫んで此処に半減を決定した。爾來吾等今日まで四十日文字通り血汗の闘に努めし来た。吾等の折衝たる半減は流石の倉橋も「ケース」に付工賃五歩を譲歩し来た。而して吾等は二人を在りて夜間の値上等は「マ」此れを譲歩は「マ」半